

二〇二〇年三月六日

芽柳のつつく水面に稚魚遊ぶ  
池の面の青天井や犬ふぐり  
あひ互ひ寄り添ふ猫や寒戻り  
黒牛の朱の舌からむ花菜かな

智恵子  
うつぎ  
たかを  
素 秀

二〇二〇年三月五日

古い母の部屋に手おりの紙雛  
咲き満つる梅の下なる蜂巢箱  
春光やぬり絵大きくはみ出す児  
青空に黄の初蝶の舞ふ軌跡  
テニスボール転がる処ぬふぐり

せいじ  
うつぎ  
なつき  
やよい  
ぽんこ

二〇二〇年三月四日

残る鴨ばらばらに散り陣なさず  
針箱に糸も揃ひし雛調度  
春しぐれ空のどこかが明るくて  
風力計強東風捉えいま必死

たか子  
うつぎ  
菜 々  
たか子

二〇二〇年三月三日

居酒屋の地酒の棚に郷土雛  
春日差す茶の間に声の弾みをり  
マスクして目と目で会釈待合室

うつぎ  
菜 々  
三 刀

二〇二〇年三月二日

野火果てて境界石の残りたる

素 秀

二〇二〇年三月一日

陽炎ひて対岸揺らぐ大吊橋  
雛祭り母を偲びて手まり寿司  
吸物に菜の花浮かせお朔日

素 秀  
智恵子  
こすもす

二〇二〇年二月二十九日

菜種梅雨ひがなパソコン開けしまま  
ウィルスに翻弄されて二月尽

明日香  
たか子

毎日句会みのる選・二〇二〇年三月八日